

平成30年 2月14日
大 阪 大 学

平成30年度大阪大学AO・推薦入試(世界適塾入試)における
第2次選考「口頭試問」の再試験の実施について(詳細)

I 概要

1. 学部学科名
基礎工学部システム科学科
2. 入試方法区分
AO・推薦入試(世界適塾入試)
3. 試験実施年月日
平成30年 2月 4日(日)
4. 合格発表年月日
平成30年 2月 7日(水)
5. 誤りのあった試験科目
第2次選考「口頭試問」
6. 当該入試区分の募集人員
基礎工学部システム科学科
AO・推薦入試(世界適塾入試) 18名
7. 当該科目の受験者数
基礎工学部システム科学科
AO・推薦入試(世界適塾入試) 36名

・基礎工学部推薦入試の概要は別紙のとおり

Ⅱ 誤りの内容、発見の経緯及び経過、対応

1. 誤りの内容

平成 30 年度 AO・推薦入試(世界適塾入試)の第 1 次選考(※1)の合格者に対して実施する第 2 次選考「口頭試問」において、基礎工学部システム科学科の 4 面接室中 1 面接室で、受験生が必要に応じて閲覧するための資料(※2)が準備されていなかったことにより、当該面接室が他の面接室と同じ条件を確保できていなかったことが判明した。

※1 : 大学入試センター試験の成績及び提出書類(自己推薦書、推薦書(学校長作成)、調査書)により選考。

※2 : 受験生は、事前に別室で資料を閲覧した後、口頭試問時に面接室においても同じ資料を閲覧できることになっている。

2. 発見の経緯及び経過

本年 2 月 7 日(水)の合格発表後に、受験生からの指摘により判明した。

また、学内において事実関係を調査する中で、口頭試問当日にも受験生から同様の指摘があったが、面接者が誤った認識に基づき、その後も受験生に資料を閲覧させることなく口頭試問を実施していたことも併せて判明した。

3. 対応

今回、当該面接室で口頭試問を受験し不合格となった受験生に対し、他の受験生と同じ条件を確保するため、本年 2 月 8 日(木)に対象の受験生に連絡の上、同年 2 月 11 日(日)及び 12 日(祝・月)に再試験を実施した。再試験は当初とは異なる試験問題を使用して実施し、当初と同じ基準で合否判定を行った。その結果、合格の要件を満たした方を追加の合格者とし、12 日(祝・月)に合格発表を行った。

追加の合格者は、当初の日程のとおり、2 月 14 日(水)に入学手続きを行い、入学時期は、当初どおり、本年 4 月となる。

4. 追加合格者の人数

基礎工学部システム科学科	1 名
(参考)	
当初(2 月 7 日)の合格者数	18 名

Ⅲ 誤りが起こった原因

当該面接室の面接者が、口頭試問実施時の資料の取扱いを誤認し、受験生の机上に置くべき受験生閲覧用の資料を、面接者が手元に持ったままになっていた。

IV 追加合格者等への周知方法

再試験受験者自身が固有のURLにより個別にWebにアクセスし、受験番号により合否を確認する。

また、今回発生した事案については、本学のホームページにおいて、謝罪及び報告を行う。

V 再発防止策

面接者に対し、マニュアルに基づく事前説明を徹底し、チェックリストを作成するとともに、面接者だけでなく試験場本部が必ず面接室の最終確認を行い、試験当日のチェック体制を強化する。

基礎工学部推薦入試の概要

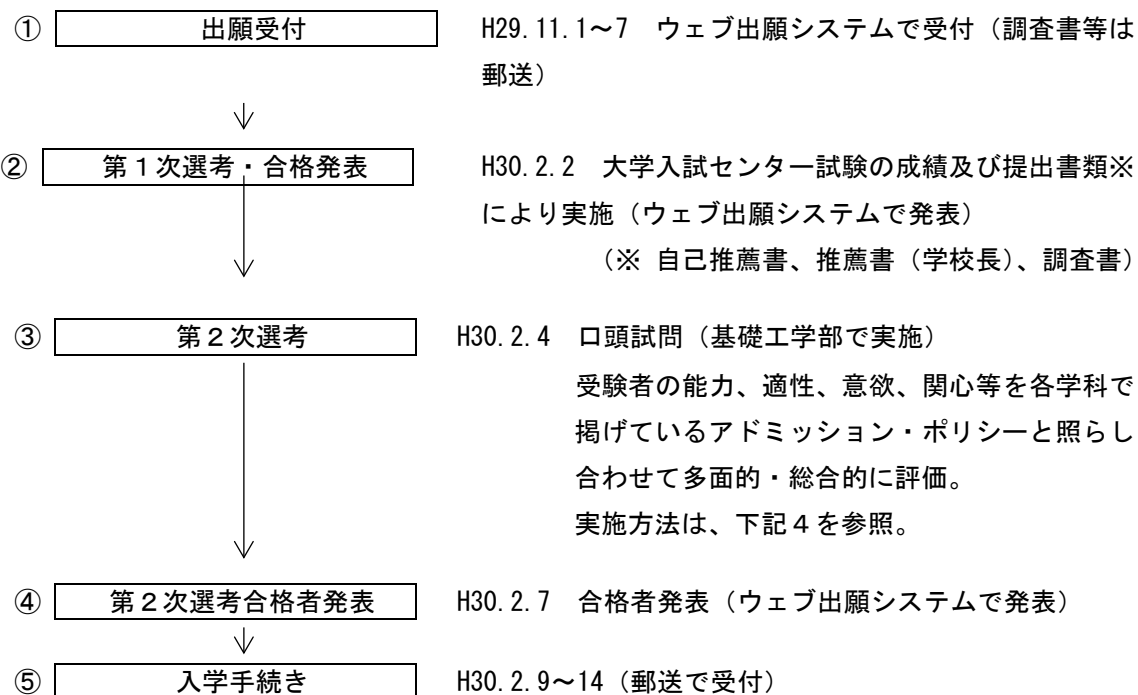
1. 平成 30 年度募集人員等（最終選考合格者数には今回の追加合格者は含まない）

	募集人員	志願者数	第 1 次選考 合格者数	最終選考 合格者数
電子物理科学科	9	1 5	1 3	8
化学応用科学科	9	2 9	1 8	9
システム科学科	1 8	7 7	3 6	1 8
情報科学科	9	4 0	1 8	9
計	4 5	1 6 1	8 5	4 4

2. 推薦条件等

- ・ 学校推薦とし、推薦人員枠は 1 校で本学部 1 学科につき 3 名以内。
- ・ 志願する学科の学問・研究に強い興味をもち、人物及び学業ともに優れ、高等学校等の長が責任を持って推薦できる者。
- ・ 基礎工学部が定める平成 30 年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目を受験する者。
- ・ 合格した場合には、入学を確約できる者。

3. 実施日程



4. 口頭試問実施の流れ

- (1) 口頭試問の前に、資料閲覧室において、試験問題、アドミッション・ポリシー（以下ＡＰ）、メモ用紙が配付され、受験生は、同室において口頭試問の準備を行う。
- (2) 作成したメモを持参して面接室に移動する。（試験問題、ＡＰは資料閲覧室から持ち出せない。）
- (3) 口頭試問を受験する。
面接室では、自身が作成したメモを見ることができるほか、資料閲覧室と同じ試験問題及びＡＰを閲覧できる。（このことは受験生にも周知されている。）
- (4) 終了後、これから口頭試問を受ける受験生との接触を避けるため、試験後待機室でしばらく待機した後、解散となる。